

様式4 障害者グループホーム第三者評価 評価後のコメント表

※ 「評価結果報告書」必須添付資料

障害者グループホーム 評価後のコメント表

評価後（評価結果を受け取った後）のグループホーム「コメント」（自由記述）

評価を受けた障害者グループホームのコメント

当法人としては、三度目の受審でした。評価機関から第三者評価について説明を受けた直後に、ホームスタッフから「法人の基本方針や職員行動規範の創生を意識した受審を目指して、法人の組織全体で第三者評価に取り組みたい」と申し出がありました。内部から法人組織全体を意識した申し出があったことがとても嬉しく、未来の組織につながる良い効果や手応えある受審となるに違いないと思いました。

一方でシフト制による勤務のため、組織内の全職員が集まる時間の調整をすることの大変さに加えて新型コロナウイルス予防の対応策と体制の確認、入居者や職員の体調管理やBCP（業務継続計画）対策の並行業務で、全員が日々緊張の連続でした。さらに今回は、評価項目が367項目にボリュームアップされて、スタッフ間で一言一句に共通認識を図ったため、振り返りの自己評価を行うミーティングでは、言葉の確認等で議論になり相当時間がかかりました。そのため受審して報告が出るまでのスケジュールの見立てが甘く報告書を上げる時期が迫ってしまったことは、管理者としての反省点です。とはいえ、時間をかけて自己評価したことが、職員それぞれの考えや価値観の擦り合わせの場になり、価値ある有意義な時間でした。バージョンアップされた自己評価の項目については、相当大変ではありましたが、組織の指針を考える機会になり、たくさんの自己評価の項目が「考える糸口」を与えてくれ、法人の将来像や方針について希望が確信に変わりました。そして改めて第三者評価受審がもたらした、たくさんの恵みに感謝しています。

第三者評価機関とは、過去から未来へとヒアリングの場面でたくさんの価値を共有しました。共に立場を超えて意見を交換し相互に影響し会える同志であり、出会いや瞬間が「一期一会」であり地域づくりです。その真摯な姿勢に感謝したいと思います。